

土・人・水

「水土里ネットおおまち」

地域用水対策協議会「設立」

鹿島川を源に平地区から大町地区へ流れ下り、途中広くをかんがい用水として潤し、また、生活用水、環境用水として多くの人に使用される越荒沢堰の水路改修に合わせて「越荒沢堰水系地域用水対策協議会」を設立し、ふれあいイベント「土・人・水」の開催や市内小学生を対象とした用水を題材にした絵画の募集、表彰などの活動を通して用水の大切さをアピールしてきましたが、十年間の地域用水機能増進事業完了にあわせて協議会を解散し、活動範囲を一水系に限定せずに大町、平、社地域全域を活動範囲とした「水・土・里ネットおおまち地域用水対策協議会」を新たに設立し、今後は前協議会の活動の一部を継承しながら、より多くの人たちに用水路の大切さや重要性を認識してもらえらるための活動を展開することとなりました。

当面は定着してきた越荒沢堰周辺で

長野県大町市大町3887番地
大町市土地改良区
水土里ネットおおまち
地域用水対策協議会
TEL 0261(22)5542
FAX 0261(23)0766

行う「ふれあいイベント土・人・水」の継続、機関誌の発行、市内小学校の総合学習に協力などの活動を実施する予定ですが、地域の声に耳を傾け、新しいアイデアも取り入れながら進めたいと考えておりますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。

【協議会役員】

◎会長

牛越 徹 (大町市長)

○副会長

中牧豊光 (大町市土地改良区理事長)

飯森雅英 (北安曇地方事務所)

農地整備課長)

水野義治 (昭和電工事業所長)

★常任委員

駒沢宗次、森 弘、飯島勝幸、

小林 司 (用水関係者)

北澤善一、大谷正祥、佐藤勇司

(自治会長代表)

吉澤義雄、荒井今朝一、清水岩根、北澤孝一、伊藤悦男、池田篤俊
(地方事務所、大町市関係職員)

◆委員
海川甲子男、新井英俊、福嶋清隆
宮田哲二、遠藤 幸、傘木宗利
(用水関係者)

第8回ふれあい イベント

恒例となったふれあいイベント「土・人・水」は越荒沢堰親水広場を中心に、八月二十六日の土曜日に開催されました。

今回は、例年行われてきた用水路周辺の雑草取りと魚つかみに加えて、越荒沢堰本川での水生昆虫観察会を行いました。

より自然に近い工法を用いた水路改修とは言えやはり人工構造物であるので、改修から数年経った今、どれだけの水生昆虫や魚類が生息しているのか心配されましたが、専門員の先生から指導を受けながら多くの子どもたちが川に入り川底を探ったところ、水質の基準できれいな水に生息すると判定されるウズムシ、サワガニ、カワゲラ、ヒラタカゲロウ類といった水生昆虫が

予想以上に多く見られ、また、カジカもたくさん住み着いていることがわかり、参加者みんなが驚きと安堵に包まれました。

しかし、専門員の先生からは越荒沢堰周辺に特定外来植物に指定されているオオハンゴンソウ(大反魂草)が侵入したと聞かされ、後日指導を仰ぎ除去しましたが、セイダカアワダチソウ、アレチウリのようににはびこってしまったからでは手遅れになるので、今後気を付けてこまめに取り除きたいと思えます。なお、今年からは水・土・里ネットおおまち地域用水対策協議会の事業として、引き続き開催する予定で協議を進めておりますので、多数ご参加いただき一層にぎやかなイベントとして盛り上げていただきますようお願いいたします。



水生昆虫の観察

越荒沢堰に不法投棄

農業用水を憩いの場として利用していただくという趣旨から、改修された越荒沢堰に沿った管理道路や親水施設に自由に入入りできるよう、一般開放していましたが、最近になって管理道路に自動車の轍ができたり、水路内に自動車の古タイヤや家電製品などの不法投棄があり、本望ではありませんが、今後更に増えることも予想されるため、防止策として管理道路への車輛の乗り入れを禁止する車止めを設置しました。



投げ捨てられた古タイヤ



春を迎えた親水広場

なお、今まで通り親水広場をレクリエーションに活用したり、越荒沢堰沿いを散策することは可能ですので、ご家族連れやグループで自由に利用していただいでかまいませんが、「来たときより美しく」を心がけて利用いただくようご協力をお願いします。

また、越荒沢堰や親水施設を利用して、各地区の子供育成会などで「魚つかみ」などを計画する場合には、あらかじめ土地改良区へご相談ください。

特定外来生物

生態系に影響

オオハンゴンソウ（キク科）は、北アメリカ原産の多年生植物で、日本には園芸植物として明治時代に導入され、その後、川辺や草原、荒地地などに広がり、北海道から本州の中部以北の地域を中心に広く帰化している。

草丈は2mを越え、8月下旬ごろにかけ大きな花を咲かせる。種子だけでなく、地下茎で繁殖するため繁殖力が旺盛で、地下茎からは他の植物のアレロパシー（多感作用）物質を分泌するなど他の植物に悪影響を及ぼす恐れがあるため、駆除作業が行われている。



猫鼻で確認されたオオハンゴンソウ

ふれあいイベント

「土・人・水」

参加者募集

恒例になった、ふれあいイベントは、今年から、水土里ネットおおまち地域用水対策協議会が主催することとなりましたが、昨年までのイベントを継承する形で第九回として行います。

内容は、越荒沢堰親水広場周辺の雑草取り、子どもを中心とした魚のつかみ取り、用水路への魚の放流を計画しています。

地域子供会の行事や、家族ふれあいの場の一つとしていかがでしょうか。大勢の参加をお待ちしております。なお、当日は昼食（おにぎり）とお茶を用意します。

◆日時 八月二十三日（土）

午前九時開会

正午終了予定

◆会場 平猫鼻 越荒沢堰親水広場

◆申込 八月十五日迄に左記まで

水土里ネットおおまち

（大町市土地改良区）

TEL 22 5542

Email

midori-net.omachi

@ceres.ocn.ne.jp

地震除けの神「要石」の話

越荒沢堰の源流は、鹿島川です。鹿島川は、鹿島槍ヶ岳に源を発する四つの溪流が大谷原付近で合流し、途中いくつかの支流を併せて南下し、鹿島集落の下流「猫鼻」地籍で大町市の幹線水路である越荒沢や野口堰を分支し、やがて野口橋付近で高瀬川と合流しています。大谷原と合流点との標高差三百メートル余を一挙に流下するため猫鼻付近を中心として幾度となく氾濫を繰り返して、川幅が安定してほぼ現在の姿になったのは、昭和三十年代以後のことです。



ひっそりとたたずむ要石

に、今年から国の直轄砂防事業として「鹿島川砂防林事業」が始まりました。鹿島集落上流から下流にかけて多くの導流堤（突き出し型堰堤）を敷設し、土砂の堆積を抑制的に進めようとするものです。導流堤に沿って林間に管理道路も設けられ、散策やバードウォッチング、林間スキーなどへの活用も期待されています。

工事区間の途中、鹿島集落から旧道へ入ったところに「要石」という高さ一メートルほどの縦長の石があります。今回の工事に伴って移転が計画されているようですが、この石には地震にちなんだ不思議な伝承が伝えられています。この石は、「右手に一本の釘を持ち、左手に飯を盛って地震の頭を押さえつけている」のだそうです。このために鹿島では地震がないとか、石にいたずらをするとか罰が当たるなどとも伝えられています。こうした伝承は、あまり根拠がない場合が多いのですが、古文書には、かつてこの地方で大きな地震があつて鹿島川が塞ぎ止められたときに、常陸国（茨城県）の鹿島神宮から鹿島と香取の二神を勧請して鹿島のお宮に祀ったとの記載があり、三百年以上前の「大沢寺争論絵図」にもこの石と十三の鳥居が並ぶ立派なお宮

が記載されています。また、寛永十五年（一六三八年）には猫鼻が崩落して鹿島川が塞ぎ止められ、水害が危惧されたことも古文書などから確認されていますので、時期は別として、ある程度の歴史的事実を伝えているのでしよう。最近、中国や中近東、そして日本の東北地方でも地震が頻発しています。機会があつたら地震除けをかねて訪ねてみてください。

米作りマラソン

今年も用水の大切さを子どもたちに伝えようと、大町西小学校五年生二クラスが総合学習で取り組む「米づくり」に協力しています。

四月十七日にはまず種まき作業をしました。当日はあいにくの小雨模様でしたが、良く話を聞き、テキパキと仕事をこなす子供たちを見て、立派な苗が育ってくれると確信しました。

五月十九日には、あらかじめトラクターで荒代を終えた水田に子どもたちは素足で入り、元気よく駆け回り泥の感触を味わいながら植え代を行いました。

以前と違って最近ではあまり見かけなくなつた風景ですが、子どもたちから「とても楽しかった」、「泥に入っておもしろかった」などという感想を

聞き、作業の後には大勢の子どもたちが、校舎の真ん中を流れる用水路で泥を洗い流している姿を見ると、改めて用水の大切さ、水環境の保全といった意識を守り伝えなければならぬと感じました。

五月二十一日には、前日の大雨で順延された田植えを行いました。各クラスに数名の植え直し経験のある子どもがいましたが、ほとんどの子どもが初体験で、悪戦苦闘が予想されましたが、号令宜しく意外にも立派に早く田植え作業は終了しました。

子どもたちには、なるべく稲の成長に興味を持って見守りながら、秋には豊作の収穫祭ができるよう頑張つて欲しいと話しました。



大切にしたい、きれいな川

「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2007

大町西小学校5年生が、総合学習で取り組んだ米作りを通して体験した農作業の様子を、それぞれが力強いタッチで表現してくれました。米作り体験を通じて感じた用水の大切さをみんなが理解して、これからも大事に守っていくという意識が生まれたことを期待しています。

寄せられた作品は越荒沢堰水系地域用水対策協議会で審査を行い、協議会の席上で牛越会長より表彰状と記念品が贈呈されました。受賞作品は次のとおりです。(敬称略)

会長賞

「まだまだがんばるぞ」



柴田はつき (大町西小5年2組)

理事長賞

「田植え」



伊藤あこ (大町西小5年2組)

「大きな稲、どこを刈ろうか」



今滝春彦

入選(大町西小5年1組)

「いねかり、たいへんだ」



北澤信広

「ラスト1本」



宮本 悟

「いねかりだー」

入選(大町西小5年2組)

「イネかり」



青木洋平



工藤百恵

「稲を運ぶ友だち」



戸谷 岳人